

## 第 11 回防災文化講演会を気仙沼市で開催しました(2016/2/6-7)

テーマ：防災教育

場所：気仙沼パークホテル6階 多目的ホール

2月6日(土)に気仙沼パークホテルにて第11回防災文化講演会を開催しました(主催・災害科学国際研究所)。講演会には一般の方々約50名が参加し、蝦名裕一准教授(人間・社会対応研究部門 災害文化研究分野)、三陸ジオパーク推進協議会の杉本伸一上席推進員、熊谷誠推進員が講演を行いました。

講演内容

蝦名 裕一 「歴史津波と災害伝承」

熊谷 誠 「三陸沿岸の津波災害と住居移転—岩手県唐丹村を事例に」

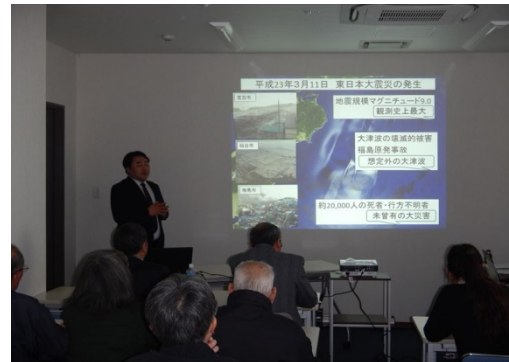
杉本 伸一 「噴火災害からのジオパーク」

蝦名准教授は、気仙沼大島に伝わる“みちびき地蔵”の伝承や1611年慶長奥州地震津波について、熊谷推進員は岩手県唐丹村における明治三陸津波や昭和三陸津波後に実施された高台移転について、杉本上席推進員は1991年の雲仙普賢岳噴火被害以降に島原市で実施された復興をめぐる様々な取り組みについて講演しました。

参加された皆様には、それぞれのテーマについて熱心に聴講していただき、講演会終了後のディスカッションでは気仙沼で今後心理学の専門家による講演も行って欲しい、とのリクエストがありました。翌7日は当研究所関係者および希望者13名で、仙台藩伊達家重臣であった市内松崎の鮎貝家庭園(煙雲館)と市内唐桑町の旧家である古館を巡見し、気仙沼地域の歴史とそれを守りつづける人々の生活について学習しました。



会場の様子



蝦名准教授の講演



熊谷推進員の講演



杉本上席推進員の講演